

定例市議会 一般質問

◎ 発達障害児の教育条件の改善 ◎ 学校図書館司書の配置 について質問しました。

3月定例市議会は、3月1日から19日までの会期で開かれました。
なかしま満議員が8日に行った一般質問の要旨を紹介します。



特別支援学校・小中学校の特別支援学級・通級指導教室の現状は

なかしま

わが国では障害のある子どもたちの教育のために、特別支援学校、小中学校の特別支援学級、通常の学級から週1回程度通う通級指導教室という、主に三つの特別な場が設けられている。

文部科学省の調査では、知的発達に遅れはないものの、学習面や行動面で著しい困難を示す発達障害のある児童生徒は6・3%在籍している。40人学級では2〜3人、30人学級では1〜2人と、「この学級にも在籍している」ことになる。市内の特別支援学校、特別支援学級の現状はどうか。また、通級指導教室で指導者がいくつもの学校を兼務していないのか。そして現状はどうか。

機能障害であり、完治はしないが、早く手立てをとることに早くすることができると、早く対応することにより、大人になってからの社会的な適応障害を防ぐことができる。

保護者同士の交流の場、保育士、教員、保護者の学習と研修の機会も大切だ。教育機関、福祉、医療、労働などの連携、協力についての考えはどうか。

市長

市内の
となみ総
合支援学



となみ総合支援学校

校の現状は、小学部は知的障害学級と肢体不自由学級合わせて10学級、中学部は6学級ある。1学級は軽度から中度の障害は1〜6名、重度1〜3名で編成され、教員は軽中度1学級1〜2名、重度は3名につき2名が配置されている。

特別支援学級は、小学校では知的障害、自閉症・情緒障害、難聴、言語障害、弱視の5種別で16学級に47名、中学校では知的障害、自閉症・情緒障害、難聴の3種別で9学級に24名が在籍している。

通級指導教室は小学校4校で40名、週1〜4時間通級指導教室で学習し、教員は市内に3名あり、うち1名は児童数の関係で2校業務になっている。来年度に向けては、新しく開設を希望する学校もあり、引き続

砺波市・小矢部市のように 図書館司書を1校ごとに 専任配置せよ

なかしま

利用者の求める資料を必ず提供する機関としての図書館には、資料と図書館員の施設が必要で、この三者を「図書館の三要素」といい、どれが欠けても図書館とは言えない。三者の図書館運営に対する貢献度は、資料が20%、図書館員が75%、施設が5%と言われる。

学校図書館司書のいる生徒児童たちは、資料の使い方、探し方を一つずつ覚えて行き、その力は一生自分のものとなる。

子どもが本ばなれしているのではなく、学校教育や社会のあり方が子どもを本から遠ざけているのだ。
市内の学校図書館司書は18校に10名



城端小学校図書室

で、勤務時間が小学校週1校3〜12時間、中学校は週2〜12時間という配置状況だ。砺波市は1校1名、週30時間、小矢部市は1校1名週20時間で、新年度に延長も検討している。

市内のすべての小中学校に図書館司書を1校ごとに専任配置せよ。

永井教育 委員会理事

現在、図書館司書助手と呼ぶ担当職員10名を全小中学校に週1日から3日配置している。すべて臨時職員だ。

また、小学校5校と中学校3校には、司書教諭が配置されている。司書教諭は、

き県教育委員会へ開設を要望している。保護者が気軽に相談できる場として、「教育相談のつどい」、県総合教育センターへの紹介を行っている。砺波広域圏わらび学園から、保育園や幼稚園に直接訪問し保育士や保護者を支援している。

交流の場として昨年4月「つづらなひとみ なんと」が結成され、保護者・教員の研修会も開催した。昨年5月「砺波市児童発達支援専門委員会」を設置し、市職員、富山大学、特別支援学校の教員、保護者も委員になって児童発達支援事業を進めている。

日本共産党 2013年4月
なかしま 満
 南砺市議会報告 No. 17

発行：日本共産党南砺市委員会
 〒939-1814 南砺市城端 1109-21
 Tel.(0763)62-3203 Fax(0763)62-3321
 Eメール：n.mituru@bell.ocn.ne.jp



●ご意見、ご要望を何でもお寄せください。

図書館司書助手と協力しながら、読書活動、子どもが運営する図書委員会への指導などを行っている。
市では、現在的人员配置の中で、蔵書の充実や読書環境の整備に努め、学校全体で読書活動の推進を指導したい。

利賀ダムの問題点 治水・地すべり・工事用道路で質問



3月定例会市議会で、一問一答方式で一人30分の持ち時間の予算特別委員会（全議員で構成）が11日に開かれ、9名が質問にたちました。
なかしま議員は利賀ダムの問題点について取り上げました。

庄川の治水効果 〈なかしま議員〉

整備計画ではダムが出来ても、大門地点での水位低下効果は10cmであり、過去最大の被害（H16・10）時で7m68cmが7m58cmになるにすぎない。これでは効果が大きいといえるのか。

庄川を南北に長く、流域は狭い。利賀川も縦長でダムによる洪水のピークカットは期待できない。流域形状から見た効果をどう見るか。

〈上坂利賀ダム対策室長〉

利賀ダムの整備と既存ダムの効果を200トンをカットし、河道配分流量を4000トとし、堤防断面が不足している箇所の整備や橋梁の架け替えを実施する。ダム地点から雄神基準点までの距離は15kmと近く、治水効果は有効なものと考えられる。

地すべりの懸念 〈なかしま議員〉

防災科学研究所や県の



巨大な地すべり跡
(利賀村大豆谷地区)

データと国交省・利賀ダム事務所とのデータに違いがある。国交省の調査を編み込みにせず、専門家の意見も聞け。あらゆる機会に地すべり対策の状況を質し、対策を要望せよ。

〈利賀ダム対策室長〉

現在も県において地すべり防止の工事が進められており、事業継続を要望している。

市としてもダム貯水池の地すべり対策を国と県で十分協議しながら進められると考える。

本体工事と道路 〈なかしま議員〉

国交省が検証対象とするダムでも、新たな段階に入らず、現段階（取り付け道路）の事業は継続される。「住民の100%がダムの完成を望んでいる」というのではなく、懸念する意見もあり、不安の解消を求めよ。

〈利賀ダム対策室長〉

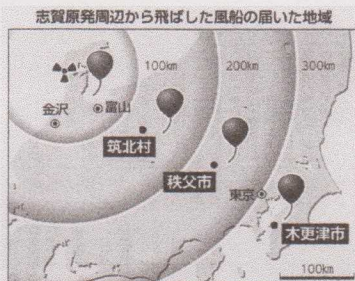
ダムと道路は一体であり、流域の皆さんと共通の認識である。地すべり対策はダム事業の点検において十分考慮される。

放射能の飛散調査

志賀原発周辺から風船飛ばし

志賀原発で放射能が外部に出るような事故が発生した場合、風下にあたる富山県が放射能に汚染される可能性が高いと言われていることから、風船を飛ばしてどこに向かうかを調査しようとして組みました。

「志賀町文化ホール」駐車場から、ヘリウムガスを充てんした工口風船（紫外線で徐々に分解されるもの）約200個を午後2時頃から3時頃まで飛ばしました。放射地点の北約10kmの「志賀町富来」のアメダスの観測結果は、2時・3時ともに曇り、北北西の風で、2時は5.8m/S、3時は4.5m/Sでした。



また、330km以上離れた千葉県木更津市や長野県、東京都あきる野市からも連絡がありました。

子どもの医療費無料制度

10月から

入院費のみ中学3年生まで拡大

長年取り組んできた「子どもの医療費無料制度の拡大」において、本年10月から入院のみですが、中学3年生まで年齢を拡大しますが、予算額は390万円ですが、軽減される医療費は半年で133万円、他はシステムの改修などに要する金額です。

通院・所得制限撤廃を 引き続き求めます

しかしその後、他の14の市町村が対象年齢を引き上げたため、24年度では最も遅れた自治体の6つの中に入っていました。24年度に入院・通院ともに中学3年生まで無料とした自治体は、5つでしたが、25年度からは8自治体となり、過半数をしめました。

年度	月	内容
H16年	11月	合併時未就学児まで無料化しており県下の先進自治体
H20年	4月	小学校3年生（10月より）まで約束
	5月	6年生までの拡大を求める907筆の署名を提出
	10月	小学6年生までの無料化と「所得制限」導入
H21年	1月	議席獲得後、毎年中学3年生までの無料化要求
	3月	一般質問で中3までの拡大・所得制限撤廃を求める
H23年	3月	予算特別委員会でも中3までと所得制限撤廃を求める
H24年	3月	民生病院常任委員会で質問
	12月	一般質問でも中3までの無料化・所得制限撤廃を要求
H25年	10月	中学3年生までの入院費のみ無料化

での通院の無料化と「所得制限の撤廃」を求めています。